

彙報 令和元（2019）年度

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 公開日: 2020-12-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0000000358

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



所 員

専任教員

渡辺 信一郎 WATANABE Shinichiro

役職：所長

専門：中国楽制史・中国古代史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHI Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬 智志 TAKWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤 桂 SAITO Kei

役職：講師

専門：音楽学・日本音楽史

客員教授

金剛 永謹

非常勤講師

藺田 郁 SONODA Iku

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

出口 実紀 DEGUCHI Miki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・民俗音楽

遠藤 美奈 ENDO Mina

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・民俗音楽

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi

担当：司書

異動のお知らせ

2020年3月、退職

遠藤 美奈（非常勤講師）

2020年4月より新任

光平 有希（非常勤講師）

客員研究員

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

2019年4月1日～2020年3月31日

研究課題：近代日本音楽の音源資料に関する研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

2019年4月1日～2020年3月31日

研究課題：浄瑠璃本に見る人形浄瑠璃上演史の研究

受入教員：竹内智恵子

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

2019年4月1日～2020年3月31日

研究課題：能の謡と囃子の歴史

受入教員：藤田隆則

丹羽 幸江 NIWA Yukie

2019年4月1日～2020年3月31日

研究課題：室町時代の能の謡の旋律法

受入教員：藤田隆則

共同研究員

計48名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告1」に掲載。

委託研究

テーマ：西村コレクションの書誌的研究と書目作成

委託者：神津武男（本学客員研究員）

担当者：竹内有一

西村公一氏（大阪府）所蔵の日本音楽関係資料について、書誌的研究およびデータベース作成に向けた基礎的調査を、浄瑠璃本と近世版本の書誌的研究の第一人者である神津武男氏に委託した。段ボール計 21 箱に収納された資料を調査の対象とし、箱の中の資料冊数が計 3454 点であることが判明した。また、箱ごとのおおよそのジャンルの傾向を調査し、日本伝統音楽の多くのジャンルを網羅するコレクションであることが判明した。2020 年度以後の本格的調査に備えるため、箱の中の状態と資料のおよその外形が把握できる写真の撮影も進められた。成果物は、研究報告書（PDF ファイル、全 13 頁）および写真 597 点で、電子データで納品された。

なお、西村コレクションの本格的研究の第一歩となる目録作成に着手するため、竹内有一を研究代表者、神津氏および伝音センター教員を研究分担者として、2020 年度からの JSPS 科研費を申請し交付が決定した（JSPS 科研費 20H01205「新出コレクション「西村公一文庫」の目録作成と江戸時代の日本伝統音楽の資料学的研究」）。

（竹内有一）

展 観

会場：新研究棟 7 階展観ブース「チラシと出版物にみる日本伝統音楽研究センター 20 年のあゆみ」令和元年 11 月 15 日（金）～令和 2 年 1 月 31 日（金）

内容：日本伝統音楽研究センターは 2000 年 4 月に開設し、2020 年 4 月で設立 20 周年を迎える。この間、当センターの研究活動の成果を広く知っていただくために、公開講座・伝音セミナー・でんおん連続講座などの様々な企画を開催してきた。

また、紀要や資料集成、研究報告や公開講座を収録した DVD などの多数の出版物を発行してきた。この展示では、日本伝統音楽研究センターで行った企画の

チラシや出版物を一堂に集め、20 年のあゆみを振り返った。



出版物【書籍】

『日本伝統音楽研究第』16 号（京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター、2019 年 6 月 30 日刊行）

〈論文〉

近世における奏楽統制 山田淳平

近世邦楽における「レンボ」の広がり 野川美穂子・

配川美加・吉野雪子

〈研究ノート〉

題目立の旋律型 藤田隆則

明治期以降における真言声明南山進流の変化の諸相
吉岡倫裕

〈資料〉

新出稀観の常磐津正本『緑増常磐寿』 竹内有一・常
岡亮・小西志保

明治の音源に聞く謡のフシー大西新三郎〈小督〉駒之
段 高橋 葉子

〈資料〉(翻訳)

鄭 珉中 著 正倉院の「金銀平文琴」について 一中国の宝琴・素琴の問題を兼ねて一(その二) 山寺 美紀子・山寺 三知

〈彙報〉

活動記録 1 プロジェクト研究・共同研究

活動記録 2 特別研究員・客員研究員

活動記録 3 専任教員

大学院 音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻

公開講座

第 55 回公開講座 (令和元年度第 1 回)

語りの立体化 そして復曲 一狂言、能、題目立一
内容

源平盛衰記に描かれる《石橋山の合戦》。これは、源頼朝による、平家に対する旗揚げの合戦です。この合戦の物語のハイライトは、源氏側の真田与一義貞と平家側の保野景久の一騎打ちです。

現行の狂言《文蔵》では、この物語のハイライト部分が、主人によって語られます。狂言で語られる同じ場面を描く能に《真田》があります。現行のレパートリーではありませんでしたが、2014 年に能として復元されました。また、奈良の東山中に伝えられる民俗芸能の題目立《石橋山》の詞章が残されており、本年、保存会による復活が行われます。

今回は、同じ石橋山の戦いを扱う 3 つをならべて鑑賞し、語り物の立体化とは何か、そして復曲(復元、復活)とは何かについて、考えるきっかけを提供できればと思います。

演目

狂言《文蔵》(大蔵流)

出演:

茂山千三郎 能楽師(狂言方大蔵流)

松本薫 能楽師(狂言方大蔵流)

復曲能《真田》(観世流)

出演:

加藤真悟 能楽師(シテ方観世流)

安田登 能楽師(ワキ方下掛宝生流)

河村晴久 能楽師(シテ方観世流)

地謡:

河村和貴 能楽師(シテ方観世流)

河村和晃 能楽師(シテ方観世流)

題目立《石橋山》

出演:

題目立保存会(奈良県奈良市上深川町)

解説:

長田あかね(神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員)

丹羽幸江(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員)

沖本幸子(青山学院大学総合文化政策学部教授)

司会・企画:

藤田隆則(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授)

日時

令和元年 11 月 16 日(土)

午後 0 時 30 分~午後 4 時(開場は正午)

会場

京都市立芸術大学 講堂(西京区大枝沓掛町 13-6)

受講料

無料

第 56 回公開講座（令和元年度第 2 回）

240 年を経てよみがえる常磐津二題 一常磐津家元所蔵浄瑠璃本の修復と復曲一

内容

演目

「緑増常磐寿（みどりますときわのことぶき）」推定 安永九年（1780 年）正月初演

「帯文桂川水（おびのあやかつらのかわみず）」寛政八年（1796 年）正月都座初演

復曲：常磐津 小文字太夫（浄瑠璃）、岸澤 式松（三味線、構成）

補綴：竹内 有一

演奏

浄瑠璃：常磐津 小文字太夫、常磐津 若音太夫、常磐津 千寿太夫

三味線：岸澤 式松、岸澤 満佐志

監修

常磐津 文字太夫（常磐津家元、重要無形文化財 常磐津節保存会会長）

解説

竹内 有一（研究代表者、日本伝統音楽研究センター教授）

常岡 亮（日本伝統音楽研究センター共同研究員）

小西 志保（日本伝統音楽研究センター共同研究員）

宇野 茂男（京都市立芸術大学大学院美術研究科教授 保存修復専攻）

日時

令和 2 年 2 月 9 日（日）

午後 2 時 30 分～午後 4 時 45 分（開場は午後 2 時）

会場

京都市立芸術大学 新研究棟 7 階合同研究室 1（西京区大枝沓掛町 13-6）

受講料

1000 円

定員

60 名（要申込・先着順）

第 57 回公開講座 ウェブサイト「インターメディアとしての能」完成記念シンポジウム

第 57 回公開講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期いたしました。

でんおん連続講座

平成 31 年度 でんおん連続講座 A

能の地拍子や謡の旋律型を理解する——羽衣の解剖

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

室町時代に成立した能。数時間にもおよぶ力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、音楽面の理解も必要です。本講座では、地拍子（能のリズム）や謡の旋律の学習を通じて、能の音楽面のさらなる理解をめざします。能の音楽に関心がある方、ぜひ受講してください。

開催日

令和元年 5 月 8 日、5 月 15 日、5 月 22 日、5 月 29 日、6 月 5 日、6 月 12 日、6 月 19 日、6 月 26 日、7 月 3 日、7 月 10 日【いずれも水曜日・全 10 回】

時間

各回 午前 10 時 40 分～午後 0 時 10 分

講師

藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

平成 31 年度 でんおん連続講座 B

京都の琴（その 7）

講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

平成 30 年度後期連続講座 E「京都の琴（その 6）」に引き続き、琴（キン／七弦琴／古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実

習を行います。講義では、(1) 琴の様々な文化的側面を学びつつ、(2) 各回 1 曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、(3) 江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

開催日

令和元年 5 月 11 日、5 月 25 日、6 月 8 日【いずれも土曜日・全 3 回】

時間

各回 午後 1 時～午後 4 時 30 分

講師

武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

平成 31 年度 でんおん連続講座 C

常磐津節実践入門（その 9）

講師：常磐津若音太夫（竹内有一）（日本伝統音楽研究センター教授）

京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。試演会、鑑賞会等も行います。はじめての方でも大丈夫です。

開催日

平成 31 年 4 月 26 日、令和元年 5 月 17 日、5 月 31 日、6 月 14 日、6 月 28 日、7 月 12 日、7 月 26 日【いずれも金曜日・全 7 回】

時間

各回 午前 10 時 40 分～午後 0 時 10 分

講師

常磐津若音太夫（竹内有一）（日本伝統音楽研究セン

ター教授）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

令和元年度 でんおん連続講座 E

京都の琴（その 8）

講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

令和元年度前期連続講座 B「京都の琴（その 7）」に引き続き、琴（キン／七弦琴／古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。講義では、

(1) 琴の様々な文化的側面を学びつつ、

(2) 各回 1 曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、

(3) 江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

※ 楽器は用意しますが、人数によっては複数で 1 張を御使用いただく場合があります。琴をお持ちの方は御持参くださっても構いません。

開催日

令和 2 年 1 月 18 日、2 月 1 日、2 月 15 日（いずれも土曜日、全 3 回）

時間

各回 午後 1 時～午後 4 時 30 分（途中休憩 15 分あり）

講師

武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同

研究室 1（新研究棟 7 階）

でんおん連続講座 D 常磐津節実践入門（その 10）
は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期いたしました。

伝音セミナー

平成 31 年度 第 1 回伝音セミナー

京都のうた（その 5）

講師：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

「京都のうた」の 5 回目は、祇園甲部芸妓による「西京名所」「さくら音頭」や、「同志社大学校歌（大中寅二作曲）」「京都高等工芸学校々歌（現京都工芸繊維大学）」など京都の学校校歌、「亀岡音頭」「板橋婦人会の歌」など京都府市の地域の唄、川下りで賑わう保津峡に行く蒸気機関車 D51・C54 の響きなどをお聴きいただきます。

開催日

令和元年 5 月 9 日 木曜日

時間

14 時 40 分～ 16 時 10 分

講師

大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

平成 31 年度 第 2 回伝音セミナー

日本民謡の現代：伝承？変容？改良？

講師：齋藤 桂（日本伝統音楽研究センター講師）

近代以降、民謡を保存・伝承しようという動きと、積極的に新しく改良・応用しようという動きは、常に両方存在し続けてきました。それは現代でも同じです。芸術音楽に民謡を取り込んだ作品は多々ありますし、またポピュラー音楽との融合も様々なジャンルで為されています。それらは、私たちが素朴に考える民謡の姿とは少し異なるかもしれませんが、一方で民謡の柔軟性のあらわれともいえるでしょう。現代の「民謡」から、今の音楽文化を考えます。

開催日

令和元年 6 月 6 日 木曜日

時間

14 時 40 分～ 16 時 10 分

講師

齋藤 桂（日本伝統音楽研究センター講師）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

平成 31 年度 第 3 回伝音セミナー

亀茲 から京都へ—散楽・蘇莫者の旅

講師：渡辺 信一郎（日本伝統音楽研究センター所長）

日本の雅楽のなかに、「蘇莫者」と呼ぶ舞楽があります。この舞楽は、西域から中国をへて日本に伝わった散楽のひとつです。西域から唐代中国へ旅をつづけていくと、もともと民衆の舞楽であった「蘇莫者」は、曲名を「感皇恩」、「万宇清」と変え、皇帝をたたえる音楽になってしまいます。一方日本には、「蘇莫者」の曲名のまま唐から伝来し、千数百年をへて雅楽の左舞となりました。「蘇莫者」の旅をたどりながら、日本雅楽の源流と伝来を紹介します。

※亀茲（きゅうじ）

かつて東トルキスタン（現在の中国新疆ウイグル自治区）に存在したオアシス都市国家。

開催日

令和元年 7 月 4 日 木曜日

時間

14 時 40 分～ 16 時 10 分

講師

渡辺 信一郎（日本伝統音楽研究センター所長）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7 階）

平成 31 年度 第 4 回伝音セミナー

昭和時代の”現代音楽”発掘

講師：田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

竹内 直（芸術資源研究センター客員研究員、奈良教育大学非常勤講師 他）

2013・2014年に続くシリーズ第3回目。当センターの資料庫には、60～80年代に録音／発売された“現代音楽”のLPが多数眠っています。それは日本の作曲家／作品の評論家、富樫康（1920～2003）氏旧蔵の資料です。平成の時代も終わり、もはや“現代音楽”ではない昭和の“現代音楽”の数々。今回は御来場の方々にも選曲作業に御参加いただけます。果たして珠玉の一曲を掘りあてることができるでしょうか。

開催日

令和元年 8月8日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

竹内 直（芸術資源研究センター客員研究員、奈良教育大学非常勤講師 他）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1（新研究棟7階）

平成31年度 第5回伝音セミナー

大衆演芸にみる芝居と流行り唄

講師：藺田 郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

このセミナーでは明治・大正・昭和にかけて生まれた数々の流行歌のなかで、とくに芝居と結びつきの強かった唄を取り上げます（「名古屋甚句」「淡海節」「伊勢音頭」など）。流行り唄が芝居のなかでどのように用いられたか。芝居と唄との前近代的な関係を踏まえつつ、両者の結びつきから近代日本の大衆演芸史の一端をのぞいてみたいと思います。

開催日

令和元年 9月5日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

藺田 郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1（新研究棟7階）

令和元年度 第6回伝音セミナー

近代日本の「医」と「音楽」

講師：光平有希（国際日本文化研究センター〔機関研究員〕）
コーディネーター：武内恵美子

治療に音楽を用いる、いわゆる音楽療法の実践が日本で花開いたのは明治時代。前近代より根付いていた東洋的身体・音楽観を発展させつつ、近代日本医療では音楽療法が積極的に導入されていきました。今より格段に医療技術が未発達な明治～昭和初期の病院。そこで、医学や病と対峙する医療従事者は音楽に何を求め、どんな音楽が闘病生活を送る患者に寄り添ったのでしょうか。当時の病院で実際に用いられた音源や再現演奏を交えつつ、ご紹介していきたいと思います。

開催日

令和元年 10月3日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

光平有希（国際日本文化研究センター〔機関研究員〕）

コーディネーター：武内恵美子

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1（新研究棟7階）

令和元年度 第7回伝音セミナー

「琉球」の音色を聴く：王朝時代と現代の三線弾き聴き比べ

講師：遠藤美奈

ゲスト：三線職人 仲嶺幹（沖縄県三線製作事業協同組合事務局長）

三線奏者 喜納吏一（野村流音楽協会師範）

沖縄の音楽文化を支えてきた三線。その形状はほとんど変化していないように見えますが、戦後、愛好者の裾野が広がるにつれ、音色は大きく変化してきました。セミナーでは、現代の職人が王朝時代に江戸へ献上された三線の再現に取り組む過程で見えてきた、楽

器の構造や音の移り変わりに注目しながら、職人と実演家を交えて三線音楽の歴史を紐解いていきます。また現代の三線を聞き弾き比べしながら、その味わいと魅力に迫ります。

開催日

令和元年 11月7日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

遠藤美奈 ゲスト：三線職人 仲嶺幹（沖縄県三線製作事業協同組合事務局長）

三線奏者 喜納史一（野村流音楽協会師範）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7階）

令和元年度 第8回伝音セミナー

能《羽衣》の楽譜

講師：藤田隆則

日本の伝統音楽は、先生と学習者の一対一の対面による伝授を中心にして受け継がれていますが、視覚的な補助教材（楽譜）も、必要不可欠なものとして、発展してきました。現在、能の音楽の教材化においては、どのような楽譜が必要なのでしょう。能楽《羽衣》を例にして、理想的なかたちを模索します。

開催日

令和元年 12月5日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

藤田隆則

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7階）

令和元年度 第9回伝音セミナー

三味線音楽のイントロダクション

講師：細野桜子（新内志賀桜、共同研究員）、竹内有一（常磐津若音太夫）

楽曲の導入部分（イントロダクション）はしばしば、

その楽曲の内容を端的にあらわし、聴衆を作品空間へといざなう。京都の宮古路豊後掾にルーツを持つ浄瑠璃に親しむ2人の観点から、その諸相をながめ、実演も交えて楽しみたい。

開催日

令和2年 1月9日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

細野桜子（新内志賀桜、共同研究員）、竹内有一（常磐津若音太夫）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7階）

令和元年度 第10回伝音セミナー

近世の雅楽譜を見る・聴く

講師：出口実紀

雅楽の楽譜は、楽人をはじめとする様々な人の手によって書写されてきました。中でも、近世には数多くの楽譜が記され、現在まで残っています。今回のセミナーでは、唱歌の記譜やその系統を探るとともに、近世に書写された雅楽譜の特徴を見ていきたいと思います。

開催日

令和2年 2月6日 木曜日

時間

14時40分～16時10分

講師

出口実紀

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1（新研究棟 7階）

令和元年度 第11回伝音セミナー

京都のうた その6：聴く都をどり

講師：大西秀紀

は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期いたしました。

図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）
- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員（非常勤を含む）／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時
- ・休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

最新情報は web サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

○その他

- ・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

